

愛知県知事の回答に対するコメント

平成20年11月4日付の愛知県知事の回答は内容の乏しいものであった。

知事の姿勢を尋ねる上で最も重要な、知事自身を責任者とする調査をなぜ行わないか、という問に対しては、知事は地方自治法上の一般原則の説明に終始し、真相究明に対する知事自身の積極的な姿勢を示すことはなかった。また、愛知県の支出権限者でありながら、最初から県警に対する不正支出の調査をしないことを決定しているなどの姿勢もあわせ見てみると、私たち県民は、不信感のもとより、知事のリーダーシップの限界を見るものである。

調査の内容について、回答書では、本庁の調査、需用費以外の調査、外郭団体の調査も行う含みを持たせたものとなっているものの、知事の積極的と言えない姿勢からみて、極めて形式的な調査方法、内容に止まることが懸念される。したがって、実際に調査の名に値する調査が実施されるよう、今後調査自体を私たち自身が監視する必要があると考える。かかる点からみて、調査結果の報告書の公開しか言及していない情報公開の姿勢は、外部委員会が非公開とされたこと、記者会見資料を一部しか愛知県公式 web 上に掲載しないことと併せ、問題である。このことは、愛知県の情報の非公開体質が変わっていないことを示すものであるばかりか、違法支出の原因が愛知県の情報の非公開体質であることを理解していないことを示すものと言わざるを得ない。ここで強く改善を求めるとともに、重要な情報が公開されない場合には、情報公開訴訟も躊躇なく行う所存である。

私たちも寄せられた情報をもとに、独自の調査をすすめる予定であるが、私たちの調査の結果、県の指摘しなかった不正が明らかになった場合には、なおざりな調査をおこなってきた知事の責任をさらに追及することとしたい。

2008.11.5

名古屋市民オンブズマン